

研究テーマ名	PC シミュレーションの実用的活用に関する調査研究
研究内容抄録	<p>圧印工程において、極印命数の少ない段階でワレ等の毀損を発生させると、作業計画に、大きな支障をきたすことから、製造現場においては、経験則等に基づく極印の模様高さの調整やレリーフの修正等を行い、この問題に対応している。</p> <p>一般に、このような極印のワレ等の毀損を事前に予測し、問題の発生を未然に防ぐための有効な手段として計算機シミュレーションがあり、この手段を活用することで圧印時に生じている極印のヘタリなどの毀損について、デザイン段階からその発生の可能性を推察できるようになり、事前の対策に繋がるものと思われる。</p> <p>これまでの研究において、有限要素法を用いた解析ソフトを使用して、基礎的な調査から始め、平成 26 年度までに実際の記念貨工業で発生した極印ワレについて、応力集中等を解明することを目的として研究を進めてきたところである。これまでの研究で圧印時に毀損しやすい箇所を特定できるようになったことから、平成 27 年度はデザイン段階から圧印時の問題を予測し、事前に問題を防ぐことを目的として調査研究を実施した。</p>
学会発表	—